

年度評価シート

施設の名 称	静岡市救護所	施設所管課名	福祉総務課
1 履行状況			
業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。			
(1)施設入退所の状況			
月平均入所者数	50.6 人(前年度50.1人)		
平成22年度通算入所者数	6 人(前年度7人)		
平成22年度通算退所者数	2 人(前年度10人)		
(2)事業実施状況			
ア 利用者支援の状況			
施設の性質上、どうしても室内に閉じこもりがちになる入所者に対し、専門講師によるクラブ活動の実施(生け花・手芸・舞踊)や誕生日外出等、利用者の要望に応じた余暇活動を充実させることで、施設内での生活の満足度向上に努めている。また、「買い物市」の実施や、フィットネス・インストラクターによる機能回復訓練など特徴ある生活支援も実施されており、良好な実施状況であるといえる。			
平成22年度より個別支援計画を整備し、この支援計画をもとにきめの細かい支援に努めている。			
イ 地域交流の状況			
「ふれあい盆踊り大会」(参加人数500名)や「ふれあい運動会」(参加人数570名)を通じて、地域住民との交流を盛んに行っており、良好な実施状況である。			
南藁科地区において、連合町内会、小学校、幼稚園、地元交番、それに静岡市救護所を含む福祉4施設との連携を深め、地元の各種行事に参加できるよう2ヶ月に1度懇談会を開催し、情報交換をしている。			
(3)その他			
平成21年12月に施設内でノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生を教訓に、所内の廊下、手すり洗面所等の消毒を毎日実施することにより、平成22年度においてはノロウイルス、インフルエンザ等の感染症の発生はなかった。			
2 市民(利用者)からの意見・要望の内容とその対応状況の評価(クレーム対応 等)			
利用者からの苦情については、社会性や客観性を確保するため苦情相談第三者委員会(静岡市わらしな学園、静岡老人ホーム、静岡市救護所共通)を開催し、概ね適切な対応が取られている。平成22年度利用者から寄せられた苦情は口頭により一件であった。			
[具体的な意見・要望と対応状況]			
＜食事の量に対する苦情について＞			
内容： 食事の量が少なく、夜お腹が空いてしまうので、量を増やしてもらいたい。			
対応： 以前も同様の苦情があったため、マンナンヒカリ(こんにやくご飯)を混ぜて炊きカロリーを増やさず量を増やすことで対応したが、味が落ちるため、使用をやめた。本人は肥満気味であるため、栄養面からも量を増やすことはできないため、栄養士よりゆっくり食べること、野菜も食べて空腹感を和らげることを説明し、本人に納得してもらった。			

3 市民(利用者)へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1)市民アンケート

本施設は、精神等に著しい障害があり、日常生活を営むことが困難な方のための入所施設であり、利用者が限定されているため、広く市民一般を対象としたアンケートは実施していない。

(2)利用者満足度調査

本施設は、入所者の多くに精神的・知的な障害があり、満足度調査という形式での調査が困難であるため、利用者満足度調査は実施していない。

(3)その他の調査

市民アンケート、利用者満足度調査を実施していないため、利用者集会において、利用者の意見・要望・苦情を把握することとしている。

また、苦情への対応については、苦情を申し出やすい環境を整えるため、苦情受付責任者を置くほか、苦情相談に社会性や客観性を確保するため、苦情第三者委員を設置している。

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務に関する収支状況については、概ね予算のとおりには執行されている。

月平均施設入所者の増加により、前年度に比べ事業活動収入が増加した。また地デジ化への対応のため、テレビ10台の購入などもあり、前年度に比べ器具什器費の支出の増大などがみられた。

5 総合的な評価(課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など)

施設の管理運営全般に関しては、事業計画に従い良好に実施されている。

なお、居宅生活の継続が困難になり、他に入所できる施設のないような方について、福祉事務所と連携の上、できる限り柔軟に受入を行うことができるような体制の整備が今後の課題である。